

9月19日（木）に開催された実践研究部会での活動を紹介します。

今回の参加者のみなさん

【今年度初参加の先生方】

瀧田健司先生（神沢中）、佐々 孝先生（御田中）
阿比留慶治先生（山王中）、丹羽良平先生（当知中）
濱地光大先生（富士中）、山下剛史先生（沢上中）
武田和大先生（西福田小）、佐藤友哉先生（港北中）
増田旬一郎先生（天神山中）、浦谷神佑先生（港北中）



御田中 西福田小 天神山中 港北中

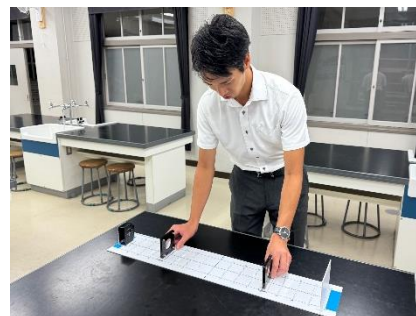
今年度初参加の先生が3名いらっしゃいました。 佐々 孝先生 武田和大先生 増田旬一郎先生 浦谷神佑先生

秋の授業公開について

港北中学校の佐藤友哉先生は、理科の授業に対する生徒の意識を「教師から与えられたものを行う」という教授待ちの状況から改善したいと考えています。本実践では、生徒にそれぞれ課題を持たせ、単元内自由進度学習を行うことでねらいに迫ります。

○ パフォーマンス課題について

佐藤先生から、単元の最初に、発見レベル、研究レベル、起業家レベルの3段階のパフォーマンス課題を生徒に提示し、自由進度学習を通して課題を解決していく実践が提案されました。それに対し、「パフォーマンス課題は、それまでに学んでいる知識を総動員して解決できる課題が良いのではないか。」「第1時に発見レベルのパフォーマンス課題、第4時に研究レベルのパフォーマンス課題のように、課題を分割して提示してみてもどうか。」「単元の頭に全体を貫く課題があるのは良い。」などの意見が出ました。



【凸レンズ2枚でできる像を観察する様子】

○ 評価について

佐藤先生から、本時(光の性質、第3時)の場合、光の直進性や光の反射の規則性を理解し、自ら選んだ課題に対して作図を通して解決しようとする姿で評価する方法が提案されました。それに対し、「パフォーマンス課題と評価基準に関連性を持たせると良い。」「第3時では単元の最初に提示したパフォーマンス課題を解決するのには知識が足りない。」などの意見が出ました。

○ 自由進度学習について

佐藤先生から、「教科書やタブレット、図書館の本、家族と相談するなど、課題に対する取り組み方は生徒それぞれ違うとしても、できることを、できるところまで進めさせたい。」という提案がありました。それに対し、「ルーブリックを見せながらどこまでできているのか説明させると良い。」「ルーブリックを3段階ぐらいに分けて提示すると良い。」「ルーブリックを見ながら生徒同士でも進捗状況を確認できると良い。」「学び方を学べるようにできると良い。」などの意見が出ました。

名理会 秋の授業公開

令和6年10月25日（金）13時～ 場所：港北中学校 授業者：佐藤 友哉先生
実践単元：中1「単元3 身近な物理現象 1章 光の性質」